

子どもと外傷後ストレス障害 (posttraumatic stress disorder ; PTSD)

あの阪神・淡路大震災から丸12年が経過した今でも、1月17日がくると、激震地区で被災した私は、振動で思わず身構えてしまった当時の記憶がよみがえります。

震災のような突然の衝撃的出来事を経験することによって生じる特徴的な精神障害が PTSD です。原因となった体験が、意図しないのに繰り返し思い出されたり、夢に登場したりする症状、体験を思い出すような状況や場面を意識的あるいは無意識的に避け続ける症状、感情や感覚などの反応性の麻痺という症状、不眠やイライラなどが症状として見られます。

同じような出来事に遭遇したとしても PTSD を発症する人とそうでない人がいます。性格傾向や精神障害の家族歴など様々な要因が発症に影響することが、多くの研究によって示され、「衝撃的出来事の実験＝PTSD 発症」という単純な図式は描けないことが明らかになりました。

私どもが行った幼稚園児の聞き取り調査では、激震地区ほど PTSD の症状を示す児が多く見られましたが、治療を要した例は限られた子どもたちだけでした。また、同時に調べた母親自身についての回答から、子どもにとっては母親の影響が大きいこともわかりました。